

■ 令和3年度 第2回日立市上下水道事業経営審議会 議事要旨

日時：令和4年2月22日(火)

午後2時から午後3時10分まで

場所：日立市役所研修室（市役所庁舎6階）

出席委員：13名

1 開 会

2 公営企業管理者挨拶

3 議 事

(1) 安定水源確保策の検討結果について

事務局から、資料1に基づき説明

→主な意見、質疑等は次のとおり

(委 員) 十王浄水場の2系列目を整備して十王系列の配水量を増やした場合、現在十王ダムから取水している工業用水等への影響はあるか。

(事務局) 元々、十王浄水場は2系列整備する想定で水利権を取得しており、十分な水量を確保しているため影響はない。また、以前は工業用水としても取水されていたが、現在は本市の水道用水のみの取水となっている。

(委 員) 令和41年度には、久慈川系の負担割合を約17%にするという想定が示されているが、それ以降も同じ負担割合のまま推移していくのか。

(事務局) この想定は、令和41年度の水需要予測33,600 m³/日に対して、十王川系で配水可能な最大量28,000 m³/日を配水した場合に、久慈川系の負担割合がどの程度まで軽減できるかを計算したものである。十王川系を最大限に活用した場合には市内の約83%をカバーできることから、久慈川系の負担割合を約17%まで軽減できることになる。ただし、実際に運用するためには、送水管の整備など様々な

工事が必要となるため、十王川系の配水区域をどこまで広げるかについては、今後の人口減少等を踏まえながら、検討していかなければならない課題の一つである。

(委員) 配水の負担割合が軽減しても、久慈川からの取水を続ける以上、塩分遡上による取水制限の課題はなくならないと思うが、その対策については別途検討するのか。

(事務局) 塩分遡上によって、丸一日完全に取水が出来ないということはない。一日の中でも取水可能な時間帯はあるため、土堰堤の設置など従来の対策に加え、負担割合の軽減により需要水量が少なくなれば、安定した水道水の供給が可能になると考えている。

(委員) 資料1の表1「配水量及び負担割合の推移想定」では令和16年度の配水量の合計値は50,300 m³/日だが、資料1の別紙1「事業計画図」では50,277 m³/日となっている。どちらが正しい数値か。

(事務局) 資料1の表1では、100 m³未満を丸めて表記している。実数は50,277 m³/日である。

(2) 水道事業の進捗状況について

事務局から、資料2に基づき説明

→主な意見、質疑等は次のとおり

(委員) 漏水防止対策として実施した試験掘調査の結果、滑川本町1～5丁目地内及び水木町2丁目地内の管路においてボルトの腐食が確認され、交換を行ったとのことだが、ボルトの腐食が確認された管は、今回調査した10路線の中で最も古い管なのか。

(事務局) ボルトの腐食が確認された管路について、滑川本町1～5丁目地内の管は昭和44年に布設されたもので、今回調査を行った路線の中では最も古い管である。また、水木町2丁目地内の管も昭和47年に

布設された比較的古い管であり、経年劣化による影響も考えられる。

(委員) 腐食性土壌による管路腐食が懸念される区域において試験掘を実施したとのことだが、土壌自体の調査は実施したのか。事業者によっては、土壌を調査して腐食のリスク等を評価し、維持管理に生かしているところもある。

(事務局) 今回の調査では、土壌自体の細かい分析は実施していない。今後の検討課題としたい。

(委員) 腐食性土壌による管路腐食が懸念される区域の調査について、令和4年度以降、新たに範囲を広げて調査を行うのか。それとも令和3年度の調査で腐食が確認された路線のみを引き続き調査するのか。

(事務局) 令和3年度の調査で腐食が確認された路線については、引き続き重点的に調査を行う。また、市内には他にも腐食性土壌による管路腐食が懸念される区域が存在するため、そちらの調査も併せて実施していきたい。

(委員) 水道事業の進捗について、コロナの影響で遅れている工事等はあるか。

(事務局) 今年度の工事については、コロナの影響による遅延は発生していない。

(3) 下水道及び雨水対策事業の進捗状況について

事務局から、資料3に基づき説明

→主な意見、質疑等は次のとおり

(委員) 令和3年度の改築事業において、繰越予定となっている工事がいくつかある。交付金や関係者との調整など理由は様々だと思うが、

手続き等に時間がかかりそうな工事については、経営戦略のP D C Aサイクルの中で、その期間を考慮して計画に盛り込むなど、実現可能な計画づくりをしてほしい。

(事務局) 次期計画策定時には、適正な事業量と改築対象箇所とのバランス等を考慮しながら、実現可能な計画づくりをしていきたい。

(委員) 本日の議題からは逸れてしまうが、諏訪町に建設予定の産業廃棄物最終処分場から排出される水を下水道に流すことについて、不安を持っている。適切な処理をしてから流すということは理解しているが、万が一に備えた対策について、県との打ち合わせ等が行われているのか。

(事務局) 公共下水道への接続については、まだ正式に協議等に行っていないが、県の意向として、公共下水道に接続したいという話は聞いている。県の計画では、通常の下水道の水質基準よりも更に厳しい基準を設けて処理した上で公共下水道に放流するという考えであり、正式に依頼があった時点で水質や水量等の細かい部分について検討する考えである。

(4) 企業局上下水道PRキャラクターの導入について

事務局から、資料4に基づき説明

→主な意見、質疑等は次のとおり

(委員) キャラクターの公表はいつ頃を予定しているのか。

(事務局) 3月20日号の日立市報に掲載するほか、同時期にホームページ等で公表する予定である。

(5) 水道料金及び下水道使用料の口座振替新規加入促進キャンペーンについて

事務局から、資料5に基づき説明

→主な意見、質疑等は次のとおり

(委員) 口座振替新規加入促進キャンペーンは、今回が初めての取組か。
口座振替件数の推移をみる限りではキャンペーンの効果は見えないが、今後も同様の取組を行う予定はあるか。

(事務局) 口座振替新規加入促進キャンペーンは、今回が初めての取組である。今後同様の取組を行うかについては、今回の効果を検証した上で検討したいと考えている。

(委員) 近年はスマホ決済など利便性の高い決済方法が普及しているが、口座振替への移行について今後どのように取り組む予定か。

(事務局) 本市においても、昨年4月にスマホ決済を導入したが、支払いの度に操作が必要なスマホ決済に比べ、口座振替は一度手続きをするだけでその後の手間がなく便利で、払い忘れがないことなどを周知し、引き続き口座振替を推進して行きたいと考えている。

(6) 日立市下水道事業 50 周年史の制作について

事務局から、資料6に基づき説明

→意見、質疑等なし

以 上